



令和4年度 果樹情報 第18号

(令和5年3月2日)

果樹の発芽予測

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (1月～2月、果樹研究所)

平均気温は、1月が1.4℃と平年並、2月が2.1℃と平年より0.1℃高く経過しました。

降水量は、1月が13.0mmと平年比22%、2月が33.5mmと平年比65%でした。

日照時間は、1月が111.6時間と平年比77%、2月が152.3時間と平年比92%でした。

2 発育予測 (3月1日現在、果樹研究所)

仙台管区气象台が2月23日に発表した1か月予報(2月25日～3月24日)では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれます。

●東北地方1か月予報(仙台管区气象台 令和5年2月23日発表)

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。週別の気温は、1週目(2/25～3/3)は、高い確率70%です。2週目(3/4～3/10)は、高い確率70%です。3～4週目(3/11～3/24)は、高い確率50%です。

今後の気温が平年より2℃高く経過した場合は、果樹の発芽はもも「あかつき」が3月23日ごろで平年より1日早く、なし「幸水」が3月31日ごろで平年より1日早く、りんご「ふじ」が3月24日ごろで平年より3日早いと予測されます。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温が2℃以上高く推移した場合、さらに生育が早まることが予想されるため注意が必要です。

表1 発芽予測日 [予測方法：発育速度(DVR)モデルによる発育予測]

	発芽日		今後の気温経過			2週間予測
	昨年	平年	平年並	2℃高い	2℃低い	
あかつき	3月27日	3月24日	3月27日	3月23日	4月1日	3月24日
幸水	4月1日	4月1日	4月6日	3月31日	4月12日	4月3日
ふじ	3月30日	3月27日	3月30日	3月24日	4月5日	3月26日

注1) 発芽日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります。

3 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的な実施

この時期の管理は、せん定、せん定枝処理、誘引及び休眠期防除等が中心となります。発芽予測日や今後の気象予報等を考慮し、管理作業が遅れないように注意しましょう。

(2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は、3月上旬から発芽直前までであり、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を傷めやすい上に、花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。

摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

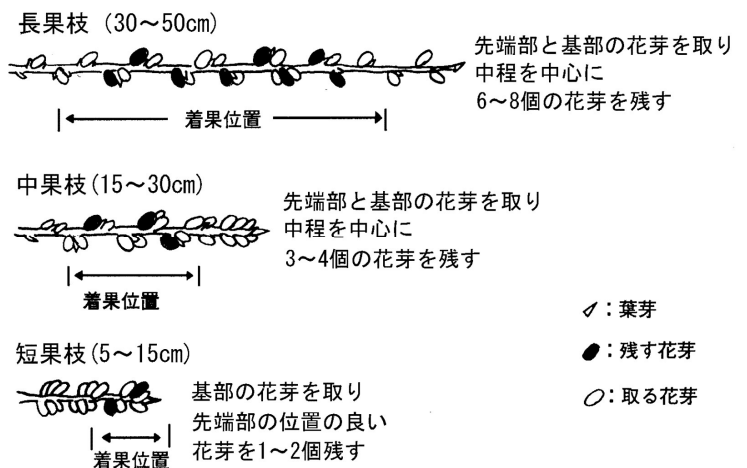


図1 ももの摘らい方法

4 病害虫防除上の留意点

発芽前の防除は、時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期の防除を徹底するとともに、発病部は削り取るかせん除しましょう。

輪紋病の発生が多い園地等で枝幹にいぼ病斑が見られる場合は、病患部を削り取りましょう。

うどんこ病によるボケ芽等はせん定時に除去し、第一次伝染源の密度低下を図りましょう。

ハダニ類、カイガラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(2) もも

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）の防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、ハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(3) ネクタリン

縮葉病に対しては、発芽前（りん片がゆるむころまで）の防除を実施しましょう。

コスカシバの発生が多い園地では、縮葉病防除後にフェニックスフロアブル 500 倍を樹幹部及び主枝に散布しましょう。

また、カイガラムシ類、モモアカアブラムシの発生が多い園地では、発芽前の防除を徹底しましょう。

(4) なし

黒星病及びハダニ類に対して、発芽 10 日前までに石灰硫黄合剤 10 倍を散布しましょう。特に、前年にニセナシサビダニ等の越冬病害虫が多発した園地では散布が必要です。

また、黒星病の枝病斑は伝染源にはなりません、枝病斑が見られる枝では芽基部感染の可能性があるため、枝病斑の有無を十分に確認しながらせん除しましょう。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除きましょう。

ハダニ類やカイガラムシ類の発生が多い場合は、発芽 10 日前までの石灰硫黄合剤に替えて機械油乳剤 95 又はハーベストオイルを使用し防除を行います、樹勢が低下した樹には使用しないよう注意しましょう。

(5) ぶどう

晩腐病や黒とう病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

また、晩腐病に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

前年にハダニ類の発生が多かった園地では、休眠期に防除を実施しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行: 福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>